

確かな学力をはぐくむ交流学習の一試み

—小学生における英語活動と中学校選択英語の異校種間交流学習を通して—

東北学院大学 教養学部 講師 稲垣 忠
 仙台市教育センター 指導主事 高橋 恭一
 仙台市科学館 指導主事 小岩 康子
 仙台市立郡山中学校 教諭 大沼 良介
 仙台市立折立小学校 教諭 小野寺泰子
 仙台市立幸町小学校 教諭 島村 信義
 仙台市立荒町小学校 教諭 高橋 研
 仙台市立柳生中学校 教諭 和田 礼子

<http://www.sendai-c.ed.jp/~koryukiw/>

キーワード：交流学習，テレビ会議システム，Web 掲示板，異校種間交流，英語活動，選択教科（英語）

1. はじめに

本研究は、児童・生徒に確かな学力と情報活用能力をはぐくむための方策を、異校種間の交流実践を通して探ったものである。小学校5年生の総合的な学習の時間（国際理解）と中学校3年生の選択教科（英語）において、テレビ会議システムやWeb 掲示板の活用及び直接交流を取り入れ交流学習を行った。

2. 研究の概要

2.1 交流テーマの設定について

双方にとって利点があり、学びあい高めあえるテーマを検討し設定する。

2.2 メディアの選択について

課題を達成するために必要なメディアを選択できる環境を整え、その効果を検証する。

2.3 情報活用能力の育成について

交流学習を通してコミュニケーション能力及び情報モラルの向上を図り、成果を考察する。

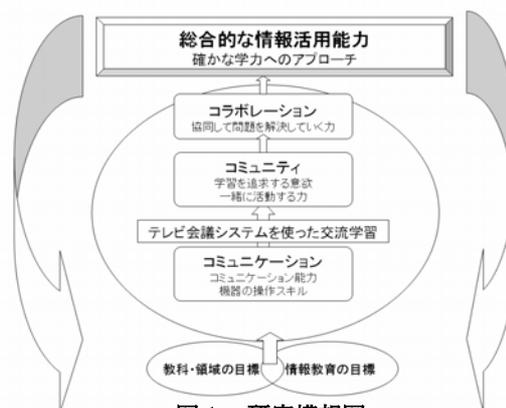


図1 研究構想図

3. 研究の実際

本実践では、(1) 教科等の目標の達成、(2) 情報活用能力の伸長を目指し、2つの視点を踏まえた指導案を作成した。なお、本実践ではぐくみたいと考えた情報活用能力については、情報教育研究推進委員会目標リスト部会作成の「目標リスト」を参考にし、指導計画に位置づけた。

表1 本実践ではぐくみたい教科等のねらいと情報活用能力

	荒町小学校 第5学年【全12時間】 「世界のことば —いろいろな国の人と仲良くなるうー」	郡山中学校 第3学年【全12時間】 「Party の企画を手伝おう」
教科等	① 自分たちの地域を、外国人の視点から見直すことで、今までとは別の観点での地域の見方に気づく。 ② 外国の人々のさまざまな考え方に触れることで、自分たちの文化とは違った文化を学ぶ。 ③ 自分で課題を設定し解決していく活動を行うことで、問題を解決する資質や能力が育ち、問題の解決に取り組む態度が育つ。	① Party や交流会などにおいて、場面や相手に応じて適切に表現を選択して話したり、応答したりすることができる。 ② 間違いを恐れずに積極的に話すことができる。 ③ 異文化における Party や交流会でのマナーについて知ることができる。
情報活用能力	① コミュニケーションツールの特徴を理解し、基礎的な操作方法を身につける。 ② 情報を発信する側と受け取る側の双方の立場を経験することにより、情報を扱うときの意識や気をつけなければいけない点について気づく。 ③ 自分の役割を発揮する。	① 交流活動を通して、目標や相手を意識しながら他者とかかわることができる。 ② Web 掲示板やテレビ会議システムの特徴を生かし、交流活動を進めることができる。

双方のねらいを満たすために、直接交流・Web 掲示板での交流・テレビ会議での交流 3つの手段を組み合わせることにした。それぞれの交流学习を用いるねらいは以下の通りである。

(1) 直接交流

- ・相手を知ること、今後の交流への意欲を高める
- ・「匿名」のバリアを無くし、相手を意識した交流にする

(2) Web 掲示板での交流

- ・文字で伝える力を育成する
- ・時間の合わない部分を補足する
- ・学習をまとめる場として活用する

(3) テレビ会議での交流

- ・伝わった実感をもたせる
- ・発音やイントネーションを音声として理解させる
- ・協同して学習を成立させる



写真1 直接交流



写真2 テレビ会議

直接交流は、単元の始めの部分で行い、その後の活動ではWeb 掲示板とテレビ会議を主とした交流を行うこととした。異校種間の交流を通して、小学生にとっては自分たちだけではできなかったレベルの内容が分かり、「自分の英語が伝わった」ということを実感させたいと考えた。また、中学生にとっては、「小学生でも話せる英語のレベルを意識させること」よう注意を促し、「自分の英語が伝わった」ということを実感させたいと考えた。

4. 成果と課題

4. 1 成果

(1) 交流テーマの設定について

小学生は、ALT を招いた Party を企画するためには、どうしても英語に詳しいパートナーの存在が不可欠であり、そこに中学生との交流学习の必然性が生まれた。双方にとって適切で必然性のあるテーマを設定すること、加えてテーマに応じた学習スタイルを選択することで、深まりのある交流学习を展開することができたと考えられる。

(2) メディアの選択について

今回の学習では、直接交流・Web 掲示板での交流・テレビ会議での交流という 3つの交流形態を取り入れた。直接交流を取り入れたことで、初めて交流学习に取り組む児童・生徒たちにとって「人と人との交流」を意識させるうえで大きな意味があると感じられた。

Web 掲示板での交流は、繰り返し読み返して練習するという目的に合致したものであった。双方がそれぞれの学習時間に合わせ、時間に縛られずに交流することもメリットのひとつであり、掲示板への書き込み内容を随時振り返ることで、情報モラルに対しても意識を高めることができた。

テレビ会議での交流では、発音やイントネーションなどを確認したり、手拍子のリズムに合わせて復唱したりする活動も見られた。Web 掲示板での交流とテレビ会議での交流はそれぞれの特性に応じて使い分けることで、お互いを補完しあいネットワークでの交流学习の効果を高めていけることが分かった。

(3) 情報活用能力の育成について

交流学习を重ねるごとにコミュニケーション力の向上が見られた。始めは一方的に情報を伝達するだけだった児童・生徒たちも、最後にはインタラクティブな関係を構築することができるようになり、表情や反応から伝えるべき内容をその場で修正していく姿も見られるようになった。



写真3 テレビ会議

4. 2 課題

積極的にテレビ会議に取り組む児童・生徒だけでなく、じっくりと練習を重ねる児童や、他のグループの発表をしっかり評価した生徒などを、きめ細やかに見取ることが必要である。観察や感想からだけではすくいきれない児童・生徒の成長をいかに評価していくのかという点については今後の課題である。また、Web 掲示板とテレビ会議はそれぞれを補完しあう効果的な活用がなされたが、児童・生徒にその特性を捉えメディアを選択する力が十分に育ったとは言いきれない。日常的に活用されるツールとなって初めて、児童・生徒が自ら選択するメディアの1つとすることができるだろう。同時に、本実践は情報機器を媒介とした実践とはなっているが、あくまで機器は媒介でしかないのであって、人間同士の連携が大きな意味を持つことを再確認する必要があると考える。

参考文献

- 稲垣 忠 2004『学校間交流学习をはじめよう』 日本文教出版
- 文部科学省 2002『情報教育の実践と学校の情報化』
- 初等中等教育におけるITの活用の促進に関する検討会議 2002『ITで築く確かな学力』